



リシンク

この街から、Rethinkして未来を変えていく。



街の課題を、考える。話し合う。

そこに住む方々、そこで働く方々、そしてそれを支える自治体の方々と一緒に。

それは、よりよい明日のために。

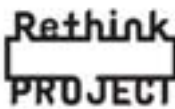
Rethinkフォーラムは、地域にゆかりのある方や、テーマにピッタリなゲストをお招きして、

地域社会の課題解決に向けたディスカッションをする場。



ちょっとだけ視点を変えてみることで、違った景色が見えてくるかもしれません。

この先も、この街が魅力的で活気にあふれるように。一緒に、Rethinkしませんか？



リシンク
Rethink

視点を変えて考えること。



テーマ

Rethink 所沢 ～地域の魅力発信～

Rethink 所沢～地域の魅力発信～(埼玉新聞社主催、Rethink PROJECT協賛)が5月上旬、所沢市で開催されました。今年11月3日に市制施行75年を迎える所沢市は、埼玉県で8番目の市として誕生しました。狭山丘陵、三富新田などの豊かな自然とともに所沢航空記念公園、西武ドーム、ところざわサクラタウンなど様々な魅力があります。三四半世紀の節目となるこの年に中核市を見据えた大きな可能性を持つ都市の、都心に近く自然環境と都市環境が調和する魅力的な街の展望について小野塚勝俊市長や所沢市出身の羽生善治日本将棋連盟会長らと「Rethink」した座談会の要旨を紹介します。



出席者

小野塚勝俊さん(所沢市長)

1972年生まれ。東京都練馬区出身。立教大学卒業。東京大学EMP・早稲田大学大学院修了。95年日本銀行入行。2009年衆議院議員に初当選。23年から現職(1期目)。

羽生善治さん(日本将棋連盟会長)

1970年生まれ。所沢市出身。89年第2期竜王戦で初タイトル獲得。96年史上初のタイトル七冠制覇。2017年第30期竜王戦に勝利、史上初の「永世七冠」に。18年国民栄誉賞受賞、紫綬褒章受章。23年日本将棋連盟会長に就任。25年6月6日で任期満了。

谷口吉憲さん(日本たばこ産業株式会社 埼玉支社長)

1977年生まれ。神奈川相模原市出身。日本大学卒業。2000年日本たばこ産業入社。東関東支社営業企画部次長、たばこ事業本部法人営業部コンビニエンスストア担当部長などを経て、24年から現職。

モデレーター

関根正昌(埼玉新聞社代表取締役社長)

1959年生まれ。蓮田市出身。法政大学卒業。85年埼玉新聞社入社。2007年取締役、18年専務取締役。19年から現職。

(肩書きは2025年5月取材時)

「ドラスティックに変貌を続ける街の魅力」

【関根】所沢市は市制施行75周年の節目を迎えます。まずは、街の魅力を教えてください。

【小野塚】この街にはあれもこれもあり、魅力を挙げれば切りがありません。また、所沢は航空発祥の地として知られています。私たちが語り合っているこの場所(所沢市役所一帯に、日本初の飛行場ができました。明治44(1911)年、ライト兄弟が人類初の有人動力飛行に成功したわずか8年後のことです。



以降戦前・戦中までは、所沢が日本における航空技術開発の中心地でした。言わば未知の世界へ挑む最前線で、その格闘を応援したのが住民の皆様でした。その気質は今も受け継がれていると思います。

所沢は地盤が安定していて飛行場に適していました。住宅情報誌の「災害に強いまち」特集では、所沢は1都3県の中で第1位で、西武鉄道も災害に強い沿線であるとして「じまはじばん」とプロモーションをされています。

【関根】羽生会長は所沢市出身です。思い出やふるさとの魅力や印象を聞かせてください。

【羽生】4歳まで所沢で育ちました。幼かったのでおぼろげですが、アルバムを見返すと航空公園や入間航空祭の記憶がよみがえります。棋士になつてからも対局やイベントで所沢を訪れる機会があります。街は、子どものころとは大きく様変わりしました。街は生き続けるものですから当然ですが、これほどドラスティックに変貌を続けている街は全国でも希有だと感じています。

西武ドームで「リアル車将棋」をしたことがあります。将棋駒の産地、山形県天童市で行われる人間を将棋の駒に見立てた「人間将棋」の自動車版で、グラウンドに将棋盤を作って、棋士がドライバーを指揮するという大掛かりな対局でした。私が対局者で、とてもいい記念になりました。

【関根】谷口支社長はプロ野球選手を目指していたとか。西武ドームにも思い出がありますか。

【谷口】西武球場がドーム化されたのは、私が入社する前年です。まだ練習生でしたが、完成直後の球場で弊社野球部の練習に参加した思い出があります。その後も縁が続きまして、営業のいろはを覚えてのも所沢周辺でした。

昨年、埼玉支社に戻って発展した所沢に驚きました。利便性と緑豊かな環境が

調和した素晴らしい都市になっています。魅力を語れば切りがないという小野塚市長の言葉通り、所沢は何でも揃っている住みやすい街だと感じています。

【小野塚】所沢市は令和12(2030)年4月の中核市移行を目指しています。市長就任の日にプロジェクトの調整会議を立ち上げ、今年3月には大野元裕知事に正式に協力要請をしました。移行によって2千件を超える事務が県から移譲され、行政サービスの迅速化などが期待できます。市民の皆様がより住みやすい街を実現したいと考えています。

「2人の名人“とうきち”を輩出した将棋の街」

【関根】せっかくの機会です。羽生会長にあらためて将棋の魅力についてお聞きしたいのですが。

【羽生】将棋は現在のルールになってすでに400年の歴史がありますから、日本の伝統文化として位置づけられると思います。その一方で、盤と駒さえあれば気軽に楽しめること、世代を超えて人と人がつながることが魅力です。

実はJリーグと連盟には深い縁がありまして、Jリーグ公式戦だけでなく「テーブルフット」なども大空でもお世話になっています。また、連盟は将棋文化の振興を図る自治体が集う「全国将棋サミット」を続けています。昨年は、所沢市長にも参加をいただきました。これからも、将棋を通してまちづくりといった分野でも貢献していきたいと考えています。

【谷口】将棋はまったくの素人ですが、先を読んだり戦術を立て、変化する状況に柔軟に対応する面白さは、野球に似ていると感じます。先を見据える力はビジネスや組織運営にも生かせそうです。将棋に目覚める気分になっていきます。

【羽生】例えば将棋教室は、強くなりたいう子でもたばかりではありません。集中力や根気強さ、礼儀作法など将棋に付随する力を身につけたいと通っている子どもたちも大勢います。

【小野塚】所沢は2人の「とうきち」といって、羽生と谷口が輩出しています。福泉藤吉と大矢東吉は江戸から明治期に活躍した棋士で、その名を冠した将棋大会が現在でも開催され、子どもから高齢者の方までが参加します。実は市役所にも将棋部があるほど、所沢は将棋が盛んな地域です。



「つなげて未来を変える ありがとうの力」

【関根】視点を改めて考え、どう未来を変えていくのか。皆さんのご意見を聞かせてください。

【小野塚】追求したいのは「可能性が広がるまち日本」です。様々な魅力がある所沢に住んでいただくからこそ、住民の皆様はご自身の可能性を上げ、やりたいことを実現できる。その土台をつくるのが市長や行政の役割だと考えています。

また、「こどもを中心としたまちづくり」を施策の真ん中に掲げ、小・中学校の給食費や18歳までの医療費を無料化しました。若い世代の方々に住みたい、住み続けたいと感じていただけることで、可能性がさらに広がると思っています。

さらに、情報発信では地域コミュニティアプリ「Eアッザ」の運用を官民連携で始めました。住民同士が双方向の情報発信によってつながる広場のようなもので、新たな魅力の発見や地域住民の関係づくりに生かしたいと考えています。

【羽生】将棋に限らず、日本の様々な伝統的な文化や歴史といったものを次代へつないでいく重要な役割を感じています。その一方で、例えば将棋を連盟の努力だけで次代へつなぐのは非常に厳しいという認識も持っています。

これからは自治体や企業、個人のファンなど様々な人たちがコラボレーションしていくことが大切だと考えています。素晴らしい棋譜を残すことは大切ですが、そこに留まらず、将棋を通して社会に対する付加価値をいかに創造するか、どう社会に貢献するかが問われていると思います。

幸いなことに、目に見えない応援や有益な助言を多方面からいただいています。連盟としてこれからしっかりと生かし、1人の棋士としても恩返ししていきたいと思っています。

【谷口】Jリーグはパーパスとして「心の豊かさを、もっと」を掲げています。社員一人一人が地域のメンバーとして地域課題を再考し、新しい解決策を提案したいと考えています。お話を聞いて、視点を考えるヒントをたくさんいただきました。



「ひろえは街が好きになる運動」を実施しています。参加者と私たちが互いに掛ける声があります。「ありがとう」です。小さな感謝をこれからも積み重ねて、社会を変えたいと思います。貴重なご意見をありがとうございます。

Rethinkフォーラムホームページ <https://rethink-pjt.jp/forum/index.html>

※Rethink PROJECTはJTがパートナーシップを基盤に取り組む地域社会への貢献活動の総称です

Rethinkフォーラム

検索